

[成果情報名] 施設栽培ビワ「麗月」の幼木期における樹体の特性

[要約] 施設栽培のビワ「麗月」の幼木は樹冠の広がりが早く、樹冠占有率は植え付け後 3 年目で約 70 %となる。また、着房率は植え付け 4 年目で概ね 80 %となり、樹冠占有面積当たり収量は 3 年目で約 1.2kg/m²となる。

[キーワード] ビワ、施設栽培、麗月、幼木期

[担当] 長崎果樹試・生産技術科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール s26700 @ pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

ビワ新品種「麗月」は、糖度が高く軟らかい果肉の良食味の品種であるが、栽培性は不明な点が多い。施設栽培における主力品種である長崎早生と比較して、樹体特性を明らかにした。

[成果の内容・特徴]

1. 施設栽培「麗月」の幼木は樹冠の広がりが早く、植え付け後 3 年目で樹幅は概ね 2.5 mとなり、130 本/10 a 植えの場合樹冠占有率は 72 %となる（表 1、図 1・2）。
2. 着房率は、植え付け直後は低いが増加し、植え付け後 4 年目で 78 %まで増加する（図 3）。
3. 樹冠占有面積当たり収量は植え付け後 3 年目で約 1.2kg/m²まで増加する（図 4、表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 新しょうは徒長しやすく側枝の先端部からのみ発芽しやすいので、樹勢を安定させ花芽分化促進のために誘引を行う。
2. 樹冠内部に新梢の発生が少なく、枝の密度が少ない傾向のため、収量増加を図るには新梢を垂主枝基部から多く発生させることが必要である。

[具体的データ]

表1 樹幅の推移 (m)

年度	2003	2004	2005
植付け後年数	2年目	3年目	4年目
樹幅	1.6 × 1.5	2.7 × 2.5	3.3 × 2.9

注 1) 2002年春に1年生苗を2.5m間隔で植え付け

2) 樹形：変則主幹形 3) 測定時期：秋期

4) 新梢の処理方法：果こん枝は弱芽かぎして2本残し、発生した枝は水平に誘引

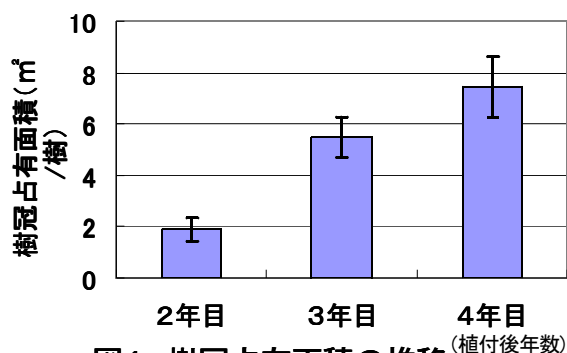


図1 樹冠占有面積の推移

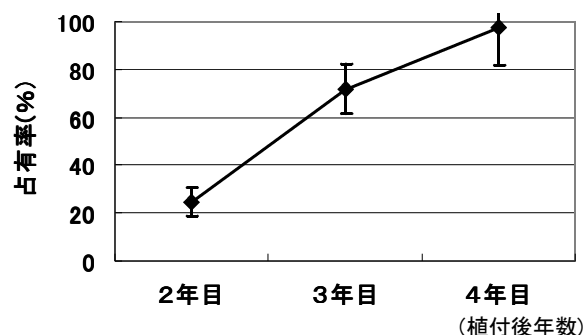


図2 樹冠占有率の推移

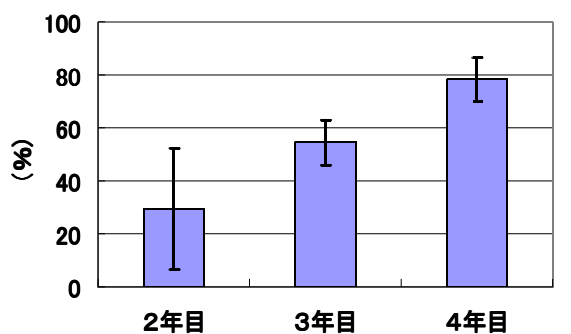


図3 着房率の推移

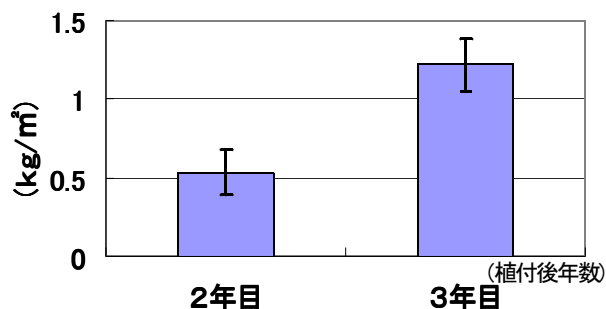


図4 樹冠占有面積当たり収量の推移

* 着房率 = 着花枝数 / 新梢数

表2 収量構成要素の推移

	1 果重	樹冠占有面積 (m²) 当たり			
	(g)	枝数(本)	袋掛け数(袋)	収穫果数(個)	収量(kg/m²)
2年目(2003)	—	8.37 ± 2.4	1.45 ± 0.2	—	0.54 ± 0.14
3年目(2004)	50.0	19.24 ± 3.0	9.19 ± 2.3	25.0 ± 6.1	1.22 ± 0.17

[その他]

研究課題名 : ビワ良食味品種「麗月」の栽培技術の確立

予算区分 : 県単

研究期間 : 2004 ~ 2005年度

研究担当者 : 徳嶋 知則、林田誠剛